

石神井太鼓保存会 せんば太鼓

新潟県



津南公演

和太鼓、夢と希望と歓喜の響き

2012年8月12日(日)20:00~ 会場：ニュー・グリーンピア津南 屋外ステージ

*演 目(演奏曲)

一. せんば一番太鼓(せんばいちばんだいこ)

歌舞伎など芝居の幕開けに使う打法をアレンジし、力強い太鼓の響きで祭りの幕開けを打ち上げる。

一. せんば囃子(せんばばやし)

民俗芸能の一つで祭礼のとき山鉦、山車、屋台、楽車などの上で打ち囃される祭囃子のリズムを和太鼓で表現する。

一. 収穫太鼓(しゅうかくだいこ)

農民の収穫を祝う風情や民衆の喜怒哀楽を力強い響きで打ち上げ、間に、みだれ打ちで祭の華やかさを表現する。

一. 道化舞太鼓(どうけまいだいこ)

力強い追い打ち太鼓の演奏中に道化(ひょっこ)が打たせると邪魔に入るが、駄目だと打たせない。それでも打たせると絡んでくる様をコミカルに打ち上げる。

一. 纏太鼓(まといだいこ)

纏とは戦闘や消防に用いられた標識を指す。竿の先端に趣向を凝らした作り物を施して馬簾(ばれん)を垂らす。戦国武将が己の武威を誇示する標具として16世紀に盛んに用いられ、初めは馬印(うまじるし)と称し、後に纏と呼ぶようになった。江戸時代には軍事組織に準ずる消防に当たる者の標具として用いられ、旗本以上は武士の非常用の調度とされる。上端に“出し”という飾り物を配し馬簾をつけ、柄の下部に石突を股として手につけて火消しの時に勇壮に振っていた。

日本の心である勇壮果敢な太鼓の人々を引き込む力を秘めている“響”、酔いしれるような“余韻”、深く心に共鳴する“轟”、纏の振られた勇壮さと可憐な動きとの絡みを表現し、打ち上げる。



昨年の津南公演風景

*石神井太鼓保存会 せんば太鼓 プロフィール

森田 明会長/会員 石神井太鼓保存会 せんば太鼓 35名/せんばジュニア泉新太鼓クラブ 22名

昭和35年頃、東京都練馬区石神井地域の盆踊り(盆太鼓)に始まり昭和40年、日本民族舞踊家 千葉(せんば)流家元の初代 千葉雅章(せんば がしろう)先生に師事し、「石神井太鼓保存会 せんば太鼓」を発足した。勇壮果敢な太鼓の響きを郷土の誇りとし、郷土芸能を広く理解し、私たちに大きな夢と希望と歓喜を与えてくれる日本古来の太鼓のリズムをアレンジして、民衆の“喜怒哀楽”を力強い太鼓の響きで表現した和太鼓演奏「石神井太鼓」を創作した。

石神井の地に育つ伝統音楽や民族芸能を保存継承するとともに、新しい音楽活動の振興、地域文化の交流の推進、健康と明朗なる青少年育成事業の一環を兼ねて、せんば太鼓ジュニア(泉新太鼓クラブ)の指導を展開している。また海外ではU.S.Aインターナショナルフェア公演(アメリカ テネシー州ナッシュビル市、ニューヨーク州ニューヨーク市)、練馬区友好都市親善公演(フランス ストラスブール市パビリオン・ジョセフィーヌ)での和太鼓演奏と、国内外問わず幅広く活動する。

人と人とのふれあいの和を広げ数多くの人々に愛され親しまれる太鼓に発展させるべく努力している。



石神井太鼓保存会 せんば太鼓

〒177-0031 東京都練馬区三原台1-17-5

TEL03-3924-7742 FAX03-3924-7799

http://www.senbadaiko.com E-mail: morita.a@nifty.com

太鼓道場 〒178-0062 東京都練馬区大泉町2-46-1

主催/ニュー・グリーンピア津南

後援/東京都太鼓連盟、むさしの和太鼓連盟、練馬区太鼓連盟



NEW GREENPIA
tsunan

ニュー・グリーンピア津南